



<はじめに>

私は8月31日から12月26日までの4か月、ソウルにあるキョンヒ大学へ留学してきました。留学はこの大学に入る前から憧れていたもので絶対に行こうと決めていました。韓国に決めた理由は高校生の時にK-POPや韓国ドラマに興味を持ち、字幕なしでも見れるようになりたい、実際に韓国人と話せるようになりたいと思ったからです。しかし親元を離れて暮らすのも、言葉も通じないところで生活すること、すべてが初めてで不安もありました。でも、私はそれ以上に楽しみな気持ちが大きかったです。今振り返ると毎日が濃く充実した4か月でここには書ききれないくらいの思い出がたくさんできました。

<大学生活>

韓国についての翌日にテストを受け、最初の3週間はレベル別に分けられた日本人だけのクラスでした。授業は今まで習ってきたものの復習のような感じでそれほど難しくありませんでした。現地学習では景福宮やソウルタワー、民俗村やクラシックコンサート、ミュージカルのナンタなどを見に行きました。民俗村では奥に行き過ぎたのか分かりませんが、遊園地のようなところを見つけ、フリーパスを買って、幼稚園児に混じりゴーカートやバイキング、汽車などに乗って遊んだのがとても楽しかったです。民俗村は映画やドラマの撮影によく使われる場所で、伝統的な生活や文化を、展示してあるところですが、それとはまた別の楽しみ方を見つけることができました。3週間の授業が終わると、またテストを受け年齢も国籍も様々な人たちが集まったクラスになりました。私は国情生の華さんと一緒に、あとは日本・中国・香港・台湾・タイ・フランス・スウェーデンから来た人がいました。最初私たちのクラスは静かで休み時間も携帯をいじっていたり、同じ国の人としか



しゃべっていなかったり、ほかのクラスではもうクラスのラインのグループができていたりしたので大丈夫かな？と少し心配でした。しかし、誕生日会やイベント、ご飯を一緒に食べに行ったりして、とても仲良くなれました。



授業はすべて韓国語で行われるので、最初は先生の言っていることを理解するのに必死で、宿題もどこを出されたのか分からないような状態でしたが、日を追うごとに先生の言っていることが自然と理解できるようになりました。授業中スウェーデン人のステファンはよくお腹が鳴っていて、しかも、教室中に聞こえるくらいの音だったので、よく笑いが起こっていました。聞いた

ら「ダイエット中だから朝ごはん食べないんだ」と、日本語で言われました。日本に住んでいたこともあるらしく日本語がペラペラでした。最後の授業では、今まであった出来事をまとめて新聞を作り、1人1人にメッセージも書きました。修了式が終わった後にみんなで焼き肉を食べに行ってカラオケにも行きました。とてもあっという間でしたが、本当にいい友人とたくさん出会うことができました。午前の授業が終わると、午後には国情性だけの授業がありました。基本的に月曜日は文化特講で韓国の遊びやテコンドーK-POPのダンスを習ったり、ミュージカルを見に行きました。火曜日は韓国の映画、水曜日は歌の授業で、1人1人が選んできた曲を発表してみんなで歌いました。木曜日はゼミで各自が決めたテーマを、パワーポイントを使って発表しました。すべてが韓国語なので一旦日本語で調べてあとから日本語に訳し、難しい単語は簡単な単語に直してからみんなに分かるようにしなければいけませんでした。テストも近かったのでなおさら大変でした。テストは中間試験と期末試験2回ありました。私が1番嫌だったのが말하기 (スピーキング)のテストでした。2人1組でペアになって出されたお題について簡単な会話を考えてみんなの前で発表するというものでした。これはパートナーがとても重要なのですが、私は中間も期末も特に仲のいい香港の子だったので、そんなに緊張もせず楽しくできて、とても助けられました。また、韓国語の力を少しでも上げるために、毎日韓国語で日記を書くようにしました。最初は辞書に頼りっきりで毎日書くのが大変でしたが、徐々に辞書を使う回数も減り、自然と文自体も長くなっていきました。自分でも知らないうちに力がついているのを実感できたので、モチベーションも上がりました。



### <日常生活>

留学中私たちは「□□□」という寮で生活していました。学校までは歩いて 10 分くらいですが、駅の目の前なので出かけるときは、とても便利でした。また、去年の先輩たちが生活していた寮ではゴキブリが出ると聞いていたので少し心配でしたが、まだできて新しい寮だったので部屋はとてもきれいでした。各部屋にキッチンと洗濯機がついていたので、いつでも好きな時に料理をしたり洗濯ができたし、WIFI もあり、門



限もなかったもので、寮生活は快適でした。すぐ近くにスーパーがあったのでよくそこで買い物をしてなるべく自炊しました。それまであまり料理はしませんでした。留学に来ていろいろな料理が作れるようになりました。私のルームメイトは最初、国情の 1 つ先輩と一緒に、そのあとは、大阪から来たとても明るくて面白い人でした。まさかのクラスも同じだったのですぐに仲良くなって部屋でもよく話したり、テスト前は勉強も教えあったりしました。2 人して違う教科書を持っていったり宿題を忘れてたりということもありましたが、それもいい思い出です。

国情のみんなとも留学を通してさらに仲良くなりました。誰かの誕生日にはホールケーキを買って一緒にお祝いしたり、夜中の 2 休みの日は、時にチキンを食べたりたくさん思い出ができました。地下鉄に乗って、ロッテワールドや梨大、東大門、などいろいろなところに買い物に行ったり、コンサートにも行きました。100 円くらいでどこへでも行けるところは、日本と違っていいと思いました。ただ街を歩いて流れている音楽を聴いたり、聞こえてくる韓国語が理解できたときなどはうれしかったし、歩くだけでもすべてが新鮮で楽しかったです。同じクラスのヨサン、クロイ、チョビョン、ホウとは特に仲良くなり、一緒にご飯を食べたり、お互いの言語を教えあったりしました。日本に帰った今でも時々連絡をとり合ったり、Skype をしています。ホウは中国人の男の子なのですが、おもしろくてとても優しいので私が中国人に対して抱いていた偏見はなくなりました。韓国の食べ物は安くて量も多くとてもおいしかったです。食べ過ぎて太ったくらいです。最初、食べるもの全てが辛かったのですが、だんだんとその辛さにも慣れ食べれるようになりました。お昼は学食を食べていました。他の学生は学食はおいしくないという人が多かったのですが、安くて量も多くおいしかったので



ほとんど毎日食べていました。韓国にはカフェが本当にたくさんありました。私はよくテスト前などに利用していました。かわいいカフェやおしゃれなカフェを探すのも楽しかったです。



#### <トウミ>

キョンヒ大学にはトウミといわれるチューター制度があり、留学生の日常生活を手伝ってくれる学生が1人ついてくれます。私のトウミをしてくれたテリョンヨンはキョンヒの卒業生で就活中の26歳の人でした。日本語は単語を少し知っているくらいでほとんど喋れませんでした。最初は年も離れているし男の人だったので気が合うか心配でした。話しかけてくれてもなんと返したらいいか分からず何度ももどかしい思いをしました。でも、分からない単語が出てくるたびに携帯の翻訳機を使って説明してくれました。学校のすぐ近くに住んでいたのでおいしいお店をたくさん知っていて教えてくれました。韓国人なのに辛い物が苦手らしく、私にも食べやすいメニューを頼んでくれました。遠くへ行くことはできませんでしたが、映画を見たりお酒を飲んだりして、タメ口で話すくらい仲良くなることができました。私が帰る間に大企業に就職が決まり、それまですごく苦勞していたので私も自分のことのようにうれしかったです。最後に服とネクタイをあげたらとても喜んでくれました。忙しくて大変な時期にトウミをしてくれて本当に感謝しています。普段の授業では出てこない自然な韓国語を聞く練習にもなり、韓国語を話すことも怖くなくなりました。これからも連絡をとりあって仲良くしていきたいと思います。



<最後に>

この4か月間は本当にあっという間でした。最初の1週間は慣れない生活でまだ1週間しか経ってないのか。とすごく長く感じました。でも後半になると月日がとても早く感じられ、今留学生生活を思い出すと遠い昔のように感じます。留学に行こうと思ったのは、単純に語学力を上げたいという理由でしたが、実際に留学をして得たものは語学力だけでなく、コミュニケーション力やたくさんの友達、自立性も身につけることができました。そして、留学生活は自分次第で大きく変わると実感しました。積極的に出かけたり、話しかけなかったら出会えなかった友人や出来事もたくさんありました。もちろん失敗もたくさんしましたが、その失敗を積み重ねることによって少しずつ成長していけるのだと思います。韓国は1番日本に身近な国で、似ているところもたくさんありますが、思っていた以上に違うところもたくさんありました。テレビなどで見る反日に人たちは1度も見かけませんでした。むしろ日本に関心がある人が多く日本語を話せる人もたくさんいました。なにより、韓国人は明るく気さくな人が多いのですぐに仲良くなることができました。次また韓国に行く機会があれば1人でも行ってみたいと思います。留学中に行きたい所や、したい事はすべてしたので後悔はないですが、具体的な目標を立てて過ごせば良かったと思います。目標を持つことで更に充実した生活が送れていたかもしれません。私はこの留学でたくさんのことを得ました。日本で普通に生活していると気づけないことに気づき、自分の知らない世界をみることができ、また、留学先で日本についても知ることができました。この留学を通してさらに韓国が好きになりましたし、もっと韓国語をがんばろうと思いました。このような機会を与えてくれた両親や先生方、そして友人たちに感謝します。

